

土佐のわらべ

第426号《第448回（2017. 5. 11） 子どもの本の読書会記録》参加者5人・文書参加2人

『生きる』 谷川 俊太郎／詩 岡本 よしろう／絵 福音館書店

今月の課題本は、谷川俊太郎さんの詩「生きる」に、岡本よしろうさんが絵を描いた詩の絵本でした。

ある夏の日、姉と弟がおじいちゃんの家へと出かけます。途中の公園では友達とおしゃべりも。家に着いたらお絵かきや、おじいちゃんと一緒に水まきを楽しみます。

おじいちゃんはこの水曜日が誕生日。父さん母さんと一緒に誕生日会を開きます。ケーキを買って、ご馳走や折り紙の首飾りをつくって。楽しい時もあつという間に過ぎ、子ども達は安らかな眠りにつきます。

このような内容の絵を背景に、谷川さんの詩の世界がひろがります。

生きているということ
いま生きているということ

繰り返されるこの言葉によって、読み手である私達の「いま」も浮かび上がってきます。その「いま」には、私達の過去が内在しており、未来への萌芽も含まれているのです。

私達自身の「いま」、私達の周囲にいる人々の「いま」、そして私達の見知らぬ人々の「いま」。地球上には様々な「いま」があります。そんな「いま」に思いを馳せる時、儂く切なく貴い思いに満たされます。

それでは読書会での感想をご紹介します。

- ・絵ごと大切にしたいと思った。絵が面白くて、ページをめくって登場している人々を追っていた。主人公とは別に、みんなそれぞれ生きているなと思った。
- ・一番心に感じたのは、おばあちゃんの写真のところ。今、生きている人とそうでない人の対比が心に訴えかけてきた。
- ・蟬が死んでいる絵からスタートしているのは、なかなかにして冒険。
- ・「かくされた悪を注意深くこぼむこと」は、その部分の挿絵とも相まって、どういう意味なんだろうと考えさせられた。
- ・日常のちょっとしたことでも、ふと「いま」に立ち返ってみることで、それまでスルーしていたものが大事に思えたり、愛しく思えたりする。「いま」によく気付いたり、敏感になれる人が、人生をより楽しく生きられる気がする。
- ・細かいところで自分に引き寄せて身近に考えられるところが、この詩の好きなところ。高尚になると自分に引き寄せて考えられなくなる。
- ・「生きる」ことを自分だけのことと考えたら苦しい。人とのつながりがあってこそ。

あなたの「いま」はどうですか？

(N. T)